

## なかだはら 中田原遺跡

(上越市大字中田原字中田原82-67ほか)

中田原遺跡は、高田平野西縁の丘陵裾部、青田川と儀明川の間に立地しています。北陸新幹線建設に伴い、7月から9月まで830㎡の発掘調査を行いました。

検出された遺構は、縄文時代の陥穴、古墳時代頃と推定される貯木場的な遺構、奈良・平安時代の井戸・土坑・道状遺構・家畜足跡等です。陥穴はいわゆる「Tピット」と呼ばれるもので、北側5基と南側2基がそれぞれ等高線に直交して配置されていました。

代表的な遺物として、貯木場的な遺構からは加工または未加工の多量の木材が出土しています。奈良・平安時代に属する土坑からは、底部に「大歳」と墨書された須恵器等が出土しています。(株)ノガミ 岡本範之)



全景(東から)



墨書須恵器

## ふるとろ 古渡路遺跡

(村上市古渡路字海老屋敷・大場沢字アケほか)

古渡路遺跡は、日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、4月から発掘調査を実施しています。調査対象範囲は南北総延長約600m、幅約40mに及びますが、一部は21年度に調査を行う予定です。

遺跡は三面川と門前川に挟まれた沖積地上に立地しています。調査区の北側は標高約14.5m、南側は標高約12.5mで、この緩斜面を横切るように複数の旧河川が流れており、流れによって低地や自然堤防に由来する微高地が形成されています。遺跡は中世の集落で、地形の起伏を活かして高いところは居住域、低いところは水田などに利用されていました。それぞれの居住域には掘立柱建物2～3棟と井戸5～6基があり、北側には道が東西に走っていました。居住域は約100mおきに置かれており、現在のところ居住域は4か所あったと考えています。居住域内での建物配置や変遷、及び居住域同士の関係については、遺物の検討を踏まえながら、今後考えていきます。

出土遺物の総量は少ないですが、14世紀初め～15世紀中頃の珠洲焼、船載磁器、井戸側・曲物などの木製品、硯、砥石等が出土しています。このほか、縄文から弥生時代にかけての土器や石器も出土しています。

(土橋由理子)



全景(北から)



居住域(西から)